



第 15 号

1993年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター

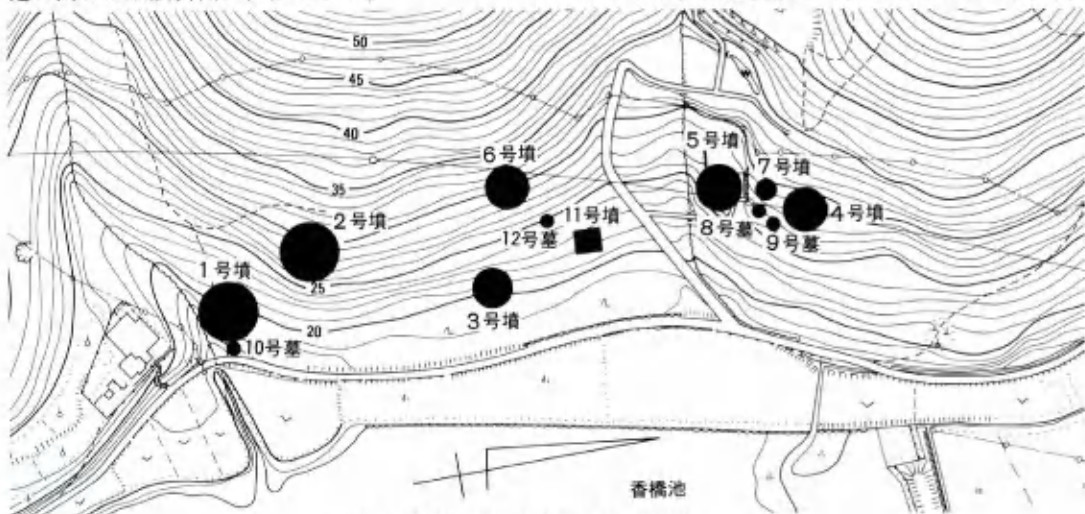
▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

西山古墳群の発掘調査結果について

—岡山市栢谷—

西山古墳群の所在地は、現在の国道53号から西へ約500m離れた岡山市栢谷の地点で、香橋池に面した丘陵斜面に位置します。

調査を実施した12基の古墳や墳墓は、6世紀中葉から7世紀前葉の間に築造されたと考えられますが、埋葬施設は一様ではなく、土城（木



西山古墳群全体図（S=1：2000）



1号墳石室



2号墳石室

棺直葬) 1基 (12号墓)、箱式石棺3基 (7号墳、8・9号墓)、堅穴式石室3基 (6・11号墳・10号墓)、横穴式石室5基 (1～5号墳) を検出しました。また墳丘形態には円形と方形があり、規模も直径が15mを測る大きなものから埋葬施設だけで墳丘盛土が存在しないものま

で、著しい差異が認められます。

この西山古墳群の各古墳や墳墓は、香橋池の護岸工事用の石材として埋葬施設上部の天井石や側石が部分的に抜き取られていましたが、ほとんどの古墳は偶然にも床に近い部分に攪乱を受けておらず、埋葬された当時のままの良好な



3号墳石室奥壁



3号墳石室狭道



4号墳全景



5号墳陶棺出土状況



6号墳石室



7号墳全景

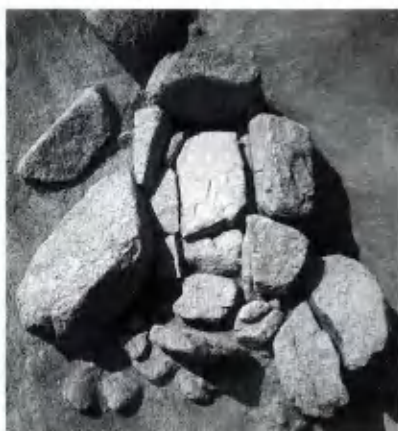
状態で保持されていました。そのため、多量の土器、武器、農工具、装身具などの副葬品も散逸することなく一括して出土しており、埋葬の方法、時期、人数などを特定できる貴重な資料を得ることができました。

また、3号墳は岡山県内でも最古級に属する横穴式石室を有する古墳ですが、本来古い埋葬形式である竪穴式石室を有する6号墳や11号墳

よりも早く、西山古墳群で最初に築造された古墳であることも判明しました。一般的に6世紀の中葉になると、単数埋葬を目的とする竪穴式石室や箱式石棺などから、一度古墳を築造すれば複数の人の追葬が可能である横穴式石室に変化し、その後広く普及するようになりますが、西山古墳群はまさに両者の接点の時期の古墳群として注目されます。(福田正継)



8号墓



9号墓



10号墓



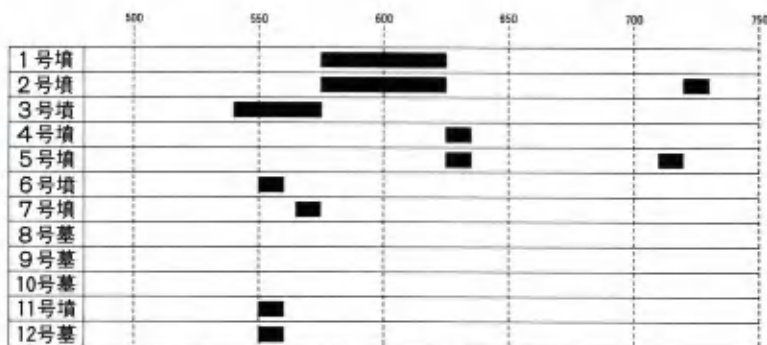
11号墳石室



11号墳全景



12号墓



西山古墳群築造・追葬期変遷一覽表

最近の発掘調査から

縄文時代早期の竪穴住居跡の発掘

—津山市大田遺跡—

津山市の北方郊外に位置する大田地区には、28haにのぼる広大な牧草地が広がっている。岡山県酪農試験場の跡地である。ここに報告する縄文時代早期の竪穴住居跡の発見のきっかけとなった調査は、この跡地利用計画として構想されている津山リゾートセンターの建設に伴い、跡地内に存在が推定されている遺跡の範囲を確認するために実施されたものである。

遺跡は地名をとって大田遺跡と仮称しているが、近辺には津山市教育委員会によって発掘調査された大田十二社遺跡などがあり、いずれ、小字名をとって名称を確定したい。遺跡地は津山の市街地の北に広がる丘陵地帯の南端部に位置し、西には宮川の流れる一宮の小盆地がある。試験場跡地の地形は、北東から南西に伸びるなだらかな尾根筋とその西斜面からなる。西斜面は途中に広い平坦面をもちつつ、ふたたび一宮の小盆地へ急角度で下がる。遺跡は、尾根筋の平坦部分の北部と尾根筋の南端斜面、それに西斜面の平坦面などに存在していた。いずれの地点でも弥生時代中期から後期にかけての遺構・遺物が出土し、ほかに古墳時代—中世のそれも検出されている。縄文時代の竪穴住居跡は尾根筋の平坦部分の北部から発見され、この地点では縄文時代の遺跡が広がっていると推定される。この地点が試験場跡地の中ではもっとも高所に位置し、標高は164.9m、一宮の盆地との比高40mを測る。

発掘された竪穴住居跡は、縁辺の一部を新しい時代の土壌によって破壊されているが、平面形が最大直径3.2mの円形で、深さは25cmを測る。竪穴の壁は45°ぐらいの角度で傾斜し、強く屈折せずに床面に続く。床面はほぼ平坦であるが、中央部がすこし窪み、床面の周縁よりは8cmほど低い。床面の周縁、壁の下端にあたる位置から、長径10～15cmの円形ないしは、楕円形の穴が20cm前後の間隔でぐるりと検出され、

上屋構造に係わる痕跡とみられる。この穴は半割してみると、断面形は先端を尖らせた杭状になっていて、ほぼ垂直に打ち込まれていることが確認された。もし、三角錐のテント状の上屋構造を復元するとすれば、この杭に垂木の下端を結わえ、垂木の上端はまとめて縛ったものを考えるのであろうか。南東側の周縁では穴の間隔が90cmと広い所が一か所あり、出入口ではないかと想像される。床面からは他に柱穴や火所などは検出されなかった。ただ、住居跡の埋土からは焼土の小塊や炭粒が出土し、とくに炭粒は床面近くで多く出土した。

この竪穴住居跡からは多量の土器片が床面に密着した状態で出土した。土器の表面には米粒のような突起が粗く全面に施されていた。このような土器は押型土器と呼ばれ、縄文時代の早期、今から7000～8000年前のものと考えられている。土器を細かく観察すると、口縁部や胴部・底部の大きな破片があり、一個体の土器が割れた可能性が高い。このような土器の出土状態から、竪穴住居の時代も縄文時代早期と考えてよい。

岡山県における縄文時代早期の住居跡としては、牛窓町黒島貝塚・鏡野町竹田遺跡・川上村中山西遺跡が知られていたが、上屋構造の痕跡を明瞭に残す竪穴住居跡の出土は大田遺跡が最初であり、その遺存状態の良さからも貴重な史料である。(岡本寛久)



竪穴住居跡全景

米田遺跡の発掘調査

米田遺跡は、岡山市街地の北東を流れる百間川が、操山山塊の東の端で南に向けて流れを変える辺りに広く存在する、大きな遺跡です。現在発掘調査を続けているのは、かつて発掘が行われた百間川米田遺跡の北方、すなわち百間川の堤防の外側にあたります。

この付近は、梅雨時や台風による大雨に見舞われると、生活排水の増大も加わって、用水路があふれだすほど増水する地域であるため、洪水防除事業として百間川に排水するためのポンプ場が建設されることになりました。このため4月から、やむをえず工事によって壊されたり、現状が変えられる約2500㎡の範囲を発掘して、記録を残すことになりました。



鎌倉時代の遺構群

この米田遺跡については、まわりに井戸をもつ、多数の人家の跡や溝などが発見され、瀬戸内海にきわめて近い港町として栄えた中世の集落跡がもっとも知られています。幾度かの発掘調査によると、縄文時代の終り頃から人々は住みつき始め、弥生時代から古墳時代にかけてはかなり大規模な集落が存在したようです。奈良時代には、備前国の重要な役所があったことを示す、まとまった倉庫群が見つかっています。近くからは、墨で文字が書かれた土器や、役人が使ったベルトの金具など貴重な遺物が発見されています。

今回発掘調査している場所は、ちょうど北側の、自然の大きな川をはさんだ対岸の村と思われる地点です。表土を20cm掘り下げると、鎌倉時代の集落の跡が現れてきました。棟の方向を、

ほぼ南北方向に示した建物の跡をはじめ、20基以上にのぼる土壇(穴)・板材を巧みに組み合わせた深さ3mの井戸や多数の柱穴などがおもな遺構です。集落の北側は、当時大きな川が流れていたと思われ、その法面は急激に傾斜しています。



川の中からはたくさんの遺物が見つかっていますが、主に、日常生活で使われた、土師器の椀・皿・鍋など炊事や飲食のための土器や須恵器の播り鉢・甕・椀

鎌倉時代に使われていた井戸

などが大半を占めています。一方、備前焼の壺・甕・播り鉢や、倉敷市玉島付近で焼かれた亀山焼のほか、遠く愛知県で生産された常滑焼や大阪府で焼かれた、主に椀などの瓦器なども出土しています。また、中国から輸入された、青磁や白磁など釉がかけられた美しい椀や皿なども見つかっています。川底近くまで掘り下げると、水分が多い砂に覆われて木製の遺物もよく残っています。桃の種や、下駄・曲物の一部が出土しています。

右の写真は、普通はお墓に立てられる木製の塔婆ですが、大きさはぐんと小さく、高さ15cm・幅1.5cm・厚さ1cmと小型です。自然災害や病気で亡くなった人々を供養するために作られたものです。表面には、「南無大慈悲自在□」と書き慣れた筆運びで8文字が書かれています。おそらく、村人と僧侶が川のほとりに立て、死者を追善供養するための法要で使われたミニ塔婆と考えられています。



(岡田博・延堂守)

木製ミニ塔婆

普及啓発事業

スライド発表会・パネル展示

—「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」—

近年、開発事業の増加に伴って、県下の発掘調査件数は上昇の一途をたどっています。貴重な発見や調査成果は新聞やテレビなどの報道機関を通じて、また調査期間中に現地説明会を開くなどして発表していますが、まだまだ充分ではありません。

そこで、文化財についてより多くの人により深く理解してもらえるように、県下で昨年度調査した遺跡を中心として、スライドを用いた発掘調査概要の報告会を関係諸機関の協力を得て岡山県立博物館講堂で開催しました。また同時に講堂の壁面を利用して発掘調査風景を写したパネルの展示も行いました。

今年は雨にもかかわらず、例年を上回る200名近くの人々が訪れ、質問も盛んに出るなど活気に満ちた会となり、こういった機会の大切さを改めて感じました。なお、開催の要領は以下のとおりです。

1. 日時 7月17日(土) 13:00～16:30



2. 場所 岡山県立博物館 講堂

3. 発表遺跡

- (1)津寺(加茂小体育館)遺跡(岡山市)……岡山市教育委員会
- (2)明見銅鐸出土遺跡(井原市)……岡山県教育庁文化課
- (3)窪木・南溝手遺跡(総社市)……古代吉備文化財センター
- (4)井口車塚古墳(津山市)……津山市教育委員会
- (5)西山古墳群(岡山市)……古代吉備文化財センター
- (6)福井大塚古墳群(総社市)……総社市教育委員会
- (7)斎富遺跡(山陽町)……古代吉備文化財センター
- (8)大村中世墓(賀陽町)……古代吉備文化財センター

平成5年度『夏休み少年考古教室』

当センターでは郷土の歴史の理解と埋蔵文化財に対する愛護意識を高めるために、小学校高学年を対象に毎年1回「夏休み少年考古教室」を開催しています。本年度は岡山市立大野小学校の6年生33名が8月24・25日の2日間にわたって参加してくれました。

第1日目は午前中センターの施設の見学や考古学入門講座を聞いて郷土の歴史を学び、午後からは実際に土器を手にとって、割れている土器の復元や文様付け、拓本をとるなどしました。第2日目は野外で火をおこし、土器を炉にかけて米や芋・貝を煮炊きしたり魚を竹の串にさし

で焼いたり古代の生活を体験しました。さすがに暑く、みんな汗だくでしたが笑いとお声の絶えない非常に充実したものとなりました。また、たかが火をつけるだけにしても古代の人々がどんなに苦勞をしたか、今がどんなに便利になっているかも学んでくれたことでしょう。昼食後は古墳の見学をしました。観音山古墳では横穴式石室の中にもぐりこみ、尾上車山古墳では古墳に登ってその大きさを実感しました。

たった2日間という短い間でしたけれども見たり触れたり実際の経験をとおして少しでも埋蔵文化財を身近に感じてくれるようになればと思います。

日程表

第1日 8月24日 (火)		第2日 8月25日 (水)	
10:00	開講式	10:00	体験学習(2) ・火おこし ・土器による塩づくり ・土器による煮炊き (米をたき、芋・貝を煮、卵で魚を焼く)
10:20	センター施設見学		
11:10	入門講座		
12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	体験学習(1) ・土器の復元 ・土器文様復元	13:00	体験学習(3) ・古墳の見学 観音山古墳 尾上車山古墳
14:20	・拓本		
15:10	かたづけ、連絡	16:00	閉講式
16:00			



展示室の見学



拓本をとる



火おこし



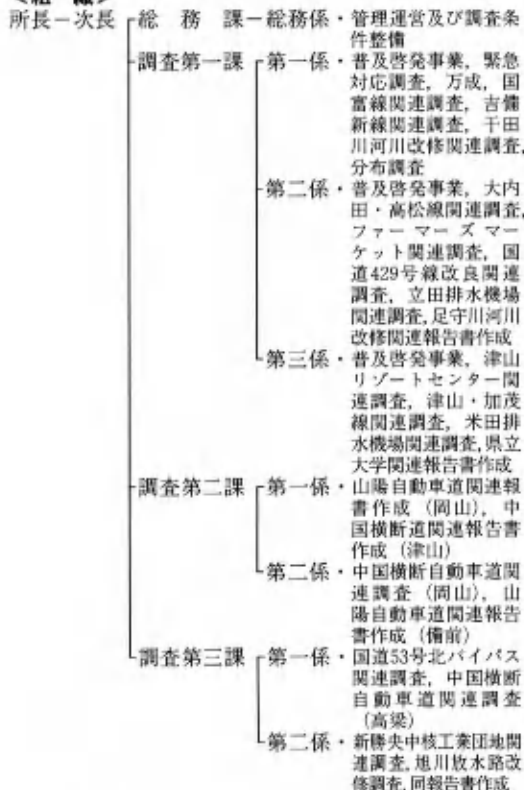
古墳の見学 (観音山古墳)



閉講式 (尾上車山の上で)

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成5年度)

<組織>



<職員>

所長	横山 常實
副所長	葛原 克人
総務課長	北原 求
総務係 課長補佐(係長)	小西 親男
主任	石井 茂・石井 善晴
主事	三宅 秀吉
	宮森 久彰・山崎 貴彦
	滝澤 幸隆・山下 恵子
調査第一課 課長	正岡 睦夫

第一係

課長補佐(係長)	松本 和男
文化財保護主査	桑田 俊明
文化財保護主任	横野 芳典
文化財保護主事	宇垣 巨雅・山本 晋也
	亀山 行雄・宮野 義治
	氏平 昭則
	岡本 泰典

第二係

課長補佐(係長)	山磨 康平
文化財保護主査	内藤 善史・長谷川澄博
	島崎 東・光永 真一
	速水 章人・物部 茂樹

第三係

課長補佐(係長)	岡田 博
文化財保護主査	岡本 寛久・平井 泰男
文化財保護主事	延堂 守・川崎新太郎
	山本 昌彦・久保恵里子
	瀧川 明德

調査第二課

課長	伊藤 晃
文化財保護主幹	下澤 公明

第一係

課長補佐(係長)	井上 弘
文化財保護主査	野上 恵司・中野 雅美
文化財保護主事	牧 良二・大橋 雅也
	澤山 孝之

第二係

係長	浅倉 秀昭
文化財保護主査	二宮 治夫・三上 修二
文化財保護主任	竹井 孝充・吉久 正見
文化財保護主事	小林 園土
	椿 真治・横山 定
	長門 修

調査第三課

課長	柳瀬 昭彦
----	-------

第一係

係長	福田 正継
文化財保護主査	江見 正己・渡辺 武仁
文化財保護主任	山田 明信・石田 容一
文化財保護主事	田原 順・東呂木 博
	大柳 浩・柴田 英樹

第二係

係長	平井 勝
文化財保護主査	大森 善市
文化財保護主事	植月 康雅・高田恭一郎
	弘和 和司
	根木 智宏

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (086) 293-3211

◎交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩5分

